

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月8日

上場取引所 大

上場会社名 不二ラテックス株式会社

コード番号 5199 URL <http://www.fuillatex.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 伊藤 研二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員財務部長

(氏名) 畑山 幹男

TEL 03-3293-5686

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	3,493	6.4	266	22.3	235	8.7	120	△21.0
23年3月期第2四半期	3,284	18.1	217	174.8	216	285.2	152	—

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 118百万円 (△13.5%) 23年3月期第2四半期 136百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	9.49	—
23年3月期第2四半期	12.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	8,506	1,850	21.8
23年3月期	8,086	1,796	22.2

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 1,850百万円 23年3月期 1,796百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	—	—	5.00	5.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,600	2.8	400	8.3	370	9.7	200	△0.8	15.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 —社 (社名) — 、除外 —社 (社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期2Q	12,861,992 株	23年3月期	12,861,992 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

24年3月期2Q	138,554 株	23年3月期	136,150 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	12,725,182 株	23年3月期2Q	12,728,011 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表等	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当期の経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による影響により製造業を中心とした国内生産の大幅減少、雇用情勢や設備投資の低迷、消費マインドの低下、更に電力供給の制約など厳しい状況が続きました。しかしながら、供給網の早期復旧により企業マインドも改善しつつあり、生産や設備投資に持ち直しの兆しが出始めました。

一方、急激な円高、欧州の財政問題や米国の景気低迷など世界経済の減速懸念等、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループは持続的成長を目指し、コスト削減等も含めた業務、特に工場関係の合理化・効率化・改善等を実施し経営体質の強化、業績の向上に努めてまいりました。

経営成績については、中核事業のひとつである医療機器事業は、主力のコンドームを取巻く市場環境は依然厳しい状況が続いておりますが、冷却商材の新製品が好調に推移しました。もう一つの主力分野である精密機器事業は、製造関連企業を中心に顧客ニーズに対応すべく積極的な製品開発と提案営業を推進してきました。国内市場においては一部業種に回復傾向がみられ、受注は堅調に推移いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、34億9千3百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ2億8百万円(6.4%)の増加となりました。

一方、利益面につきましては、継続的な原材料費増加を中心としたコスト圧迫要因があったものの、生産合理化をベースとした経営の効率化を図るとともに諸経費の節減を行い、営業利益は2億6千6百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ4千8百万円(22.3%)の増益となりました。経常利益は2億3千5百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ1千8百万円(8.7%)の増益となりましたが、四半期純利益は関係会社株式評価損の計上等により1億2千万円と前年同四半期連結累計期間と比べ3千2百万円(△21.0%)の減益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。なお、セグメント損益は、営業利益又は営業損失に基づいております。

① 医療機器事業

主力の国内コンドームは、継続的かつ中心的な戦略として位置づけている販売チャネルとしての大型小売店・ドラッグストア・コンビニエンスストア開拓をより重点的に推進しました。常態化した価格競争に伴う価格低下圧力は依然として激しく、原材料全般の継続的な価格高止まりにより引き続き厳しい展開が続きました。一方、新たなコンセプトで企画開発した冷却枕を中心とした冷却商材が、エコ・節電志向も相まって順調に推移しました。輸出につきましては、継続的な新規販路開拓と自社ブランドの拡販戦略により受注は堅調に推移しました。

また、プローブカバー(感染予防製品)を中心としたメディカル製品については引き続き堅調に推移しました。

この結果、売上高は11億1千8百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ1億1千2百万円(11.2%)の増加となりました。

セグメント利益は、原材料費のコストアップを生産合理化で吸収し、販売経費を中心とした営業費用削減が奏効し、6千9百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ8千1百万円(―%)の増益となりました。

② 精密機器事業

主力のショックアブソーバ及びロータリーダンパーは、国内市場において受注は堅調に推移しました。主要な市場として位置付け、開拓深耕を続けている自動車関連、家電、産業用の分野においては受注がやや低迷したものの、住宅設備関連は堅調に推移しました。取引展開をしている多くの業種では徐々に受注回復の動きが出てまいりましたが、一部業種においては依然不透明な状況が続きました。

また、海外市場では、当社の大手取引先工場のある欧州を中心に受注は引き続き堅調に推移しました。

一方、利益につきましては、製造ラインの自動化・半自動化、新ラインの稼働による製造原価低減を実行し、さらに販売費節減の継続的な取り組みによりコスト圧迫要因の吸収に注力しました。

この結果、売上高は20億2千1百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ1億3千5百万円(7.2%)の増加となりました。

しかし、セグメント利益は、3億9千5百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ4千1百万円(△9.5%)の減益になりました。

③ SP事業

主力のゴム風船が主体となる販促用品市場のニーズ多様化と市場の縮小が続きました。加えて、節電志向、広告販促活動・イベントの縮小等の影響もあり大変厳しい市場環境となりました。

この結果、売上高は、2億7千6百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ3千3百万円(△10.9%)の減少となりました。

セグメント損失は、0百万円となり前年同四半期連結累計期間と比べ1千2百万円(―%)の減益になりました。

④ その他

売上高は、7千7百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ4百万円(△6.0%)の減少となりました。

しかし、セグメント利益は、7百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ1千1百万円(―%)の増益となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間の総資産は、85億6百万円となり、前連結会計年度末と比べ4億2千万円増加しました。主な要因は、現金及び預金の2億7千2百万円の増加と受取手形及び売掛金の1億6千5百万円の増加によるものであります。

負債総額は66億5千6百万円となり、前連結会計年度末と比べ3億6千5百万円増加しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の1億8千2百万円の増加と長短借入金の1億3千1百万円の増加によるものであります。

純資産総額は18億5千万円となり、前連結会計年度末と比べ5千4百万円増加しました。主な要因は、配当金支払いなどによる減少はありましたが利益剰余金の5千2百万円の増加によるものであります。この結果、自己資本比率は21.8%となりました。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、13億9千8百万円と前年同四半期連結累計期間と比べ2億3千9百万円(20.6%)の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動により得られた資金は、原材料高に苦しみながらも、コスト削減等の諸課題に取り組みつ経営体質の強化に努めた結果、税金等調整前四半期純利益1億9千7百万円、仕入債務の増加1億8千2百万円などによる収入や、売上債権の増加1億6千5百万円などによる支出となり、その結果、2億9千3百万円と前年同四半期連結累計期間と比べると3億8千6百万円(―%)収入の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動により支出した資金は、前年同四半期連結累計期間と比べ2億4千9百万円(―%)増加となりました。この要因は主に固定資産の取得によるもので、その結果、8千1百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動により得られた資金は、前年同四半期連結累計期間と比べ1億2千4百万円(―%)増加し、6千1百万円となりました。これは、主に長期借入による調達が返済より上回ったことによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、これら予想数値と異なる可能性があります。なお、下期につきましては、未だ先行き不透明な経済状況が続き、厳しい環境で推移する事が想定されるため、通期の業績予想は、平成23年5月13日公表の業績予想数値を据え置きと致しました。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,375,457	1,648,380
受取手形及び売掛金	1,762,168	1,927,431
商品及び製品	411,780	449,783
仕掛品	415,068	421,248
原材料及び貯蔵品	559,537	555,130
その他	112,926	135,943
貸倒引当金	△333	△364
流動資産合計	4,636,606	5,137,553
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	846,773	839,178
土地	1,481,001	1,481,001
その他(純額)	346,558	323,805
有形固定資産合計	2,674,334	2,643,985
無形固定資産		
投資その他の資産	54,026	49,630
その他	717,822	673,021
貸倒引当金	△428	△512
投資その他の資産合計	717,394	672,509
固定資産合計	3,445,755	3,366,125
繰延資産	4,410	3,259
資産合計	8,086,772	8,506,938
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,086,783	1,269,405
短期借入金	718,000	706,000
1年内返済予定の長期借入金	867,487	902,806
未払法人税等	20,510	92,744
賞与引当金	99,784	104,348
その他の引当金	—	3,588
その他	311,915	305,833
流動負債合計	3,104,479	3,384,725
固定負債		
社債	500,000	500,000
長期借入金	1,699,937	1,808,415
退職給付引当金	371,197	357,796
役員退職慰労引当金	264,533	276,282
その他	350,268	328,893
固定負債合計	3,185,936	3,271,388
負債合計	6,290,416	6,656,114

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	643,099	643,099
資本剰余金	248,362	248,362
利益剰余金	658,415	711,324
自己株式	△29,098	△29,399
株主資本合計	1,520,779	1,573,387
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,706	5,821
土地再評価差額金	271,478	275,733
為替換算調整勘定	△4,609	△4,118
その他の包括利益累計額合計	275,576	277,436
純資産合計	1,796,355	1,850,824
負債純資産合計	8,086,772	8,506,938

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	3,284,657	3,493,219
売上原価	2,398,746	2,540,140
売上総利益	885,910	953,078
販売費及び一般管理費	668,308	686,920
営業利益	217,602	266,157
営業外収益		
受取利息	918	425
受取配当金	3,223	3,180
受取賃貸料	13,893	8,893
保険解約返戻金	19,900	—
その他	11,822	6,015
営業外収益合計	49,759	18,514
営業外費用		
支払利息	41,521	38,710
賃貸費用	4,740	3,191
その他	4,731	7,492
営業外費用合計	50,993	49,394
経常利益	216,368	235,277
特別利益		
投資有価証券売却益	—	3,500
固定資産売却益	94	3,036
特別利益合計	94	6,536
特別損失		
関係会社株式評価損	—	43,989
固定資産売却損	22,881	—
固定資産除却損	2,377	102
特別損失合計	25,259	44,092
税金等調整前四半期純利益	191,203	197,721
法人税、住民税及び事業税	2,241	89,200
法人税等調整額	35,991	△12,272
法人税等合計	38,233	76,928
少数株主損益調整前四半期純利益	152,970	120,793
四半期純利益	152,970	120,793

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	152,970	120,793
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14,603	△2,885
為替換算調整勘定	△1,422	490
その他の包括利益合計	△16,025	△2,394
四半期包括利益	136,945	118,399
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	136,945	118,399
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	191,203	197,721
減価償却費	79,330	89,133
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3,510	114
賞与引当金の増減額 (△は減少)	6,933	4,561
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△12,252	△13,409
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	5,152	13,949
その他の引当金の増減額 (△は減少)	5,945	3,588
受取利息及び受取配当金	△4,142	△3,606
支払利息	41,521	38,710
社債発行費償却	1,150	1,150
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△3,500
固定資産売却損益 (△は益)	22,787	△3,036
有形固定資産除却損	2,377	102
関係会社株式評価損	—	43,989
売上債権の増減額 (△は増加)	△677,924	△165,231
たな卸資産の増減額 (△は増加)	14,191	△39,763
仕入債務の増減額 (△は減少)	273,776	182,458
その他	△8,285	△3,579
小計	△54,724	343,356
利息及び配当金の受取額	4,142	3,606
利息の支払額	△41,521	△38,710
法人税等の支払額	△1,241	△14,612
営業活動によるキャッシュ・フロー	△93,345	293,638
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2	0
定期預金の払戻による収入	100,000	—
有形固定資産の取得による支出	△32,663	△49,080
有形固定資産の売却による収入	44,477	4,890
無形固定資産の取得による支出	△9,819	△27,684
投資有価証券の取得による支出	△2,362	△1,992
投資有価証券の売却による収入	33,521	7,000
貸付金の回収による収入	36,720	—
その他	△1,937	△14,785
投資活動によるキャッシュ・フロー	167,933	△81,653
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△142,000	△12,000
長期借入れによる収入	600,000	600,000
長期借入金の返済による支出	△472,709	△456,203
リース債務の返済による支出	△10,583	△7,135
自己株式の取得による支出	△298	△301
配当金の支払額	△38,204	△63,352
財務活動によるキャッシュ・フロー	△63,795	61,008
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,015	△72
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8,776	272,921
現金及び現金同等物の期首残高	1,151,196	1,126,073
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,159,973	1,398,995

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上額 (注) 3
	医療機器 事業	精密機器 事業	SP事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,005,930	1,886,089	310,577	3,202,596	82,060	3,284,657	—	3,284,657
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,005,930	1,886,089	310,577	3,202,596	82,060	3,284,657	—	3,284,657
セグメント利益 又は損失(△)	△12,248	436,259	12,376	436,388	△4,530	431,857	△214,255	217,602

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電工用手袋事業及び食容器事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△214,255千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上額 (注) 3
	医療機器 事業	精密機器 事業	SP事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,118,105	2,021,303	276,644	3,416,054	77,165	3,493,219	—	3,493,219
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,118,105	2,021,303	276,644	3,416,054	77,165	3,493,219	—	3,493,219
セグメント利益 又は損失(△)	69,730	395,021	△228	464,523	7,177	471,700	△205,542	266,157

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電工用手袋事業及び食容器事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△205,542千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。